

甲斐市立竜王小学校 自己評価書

平成30年2月5日 (月) 作成

校長 「 奥山 賢一 」 記述者 職名 主幹教諭 「 内藤 賢 」

- 学校教育目標 「明るく元気な竜の子」の育成
- ・た…助け合う子ども…(情)
 - ・つ…強い心を持った子ども…(意)
 - ・の…伸びゆく体の子ども…(体)
 - ・こ…根気強く学ぶ子ども…(知)

学校経営方針

- (1) 教職員の英知と和を結集し、学校教育目標の具現化に努める。
- (2) 児童一人ひとりの自己実現を目指す学校づくりを推進する。
- (3) 研修活動を活性化し、自ら学ぶ授業づくりを推進する。
- (4) 特色ある学校づくりに努める。
- (5) 安全・安心な学校づくりに努める。



1 全体評価

平成28年度より、学校評価は年1回の実施となり、アンケート形式で11月に実施している。教職員の自己評価は、次の全6観点で行っている。

- I 「学校教育目標・学校経営について」
- II 「学校運営について」
- III 「学習指導について」
- IV 「生徒指導について」
- V 「地域との連携について」
- VI 「学校の特色に関して」

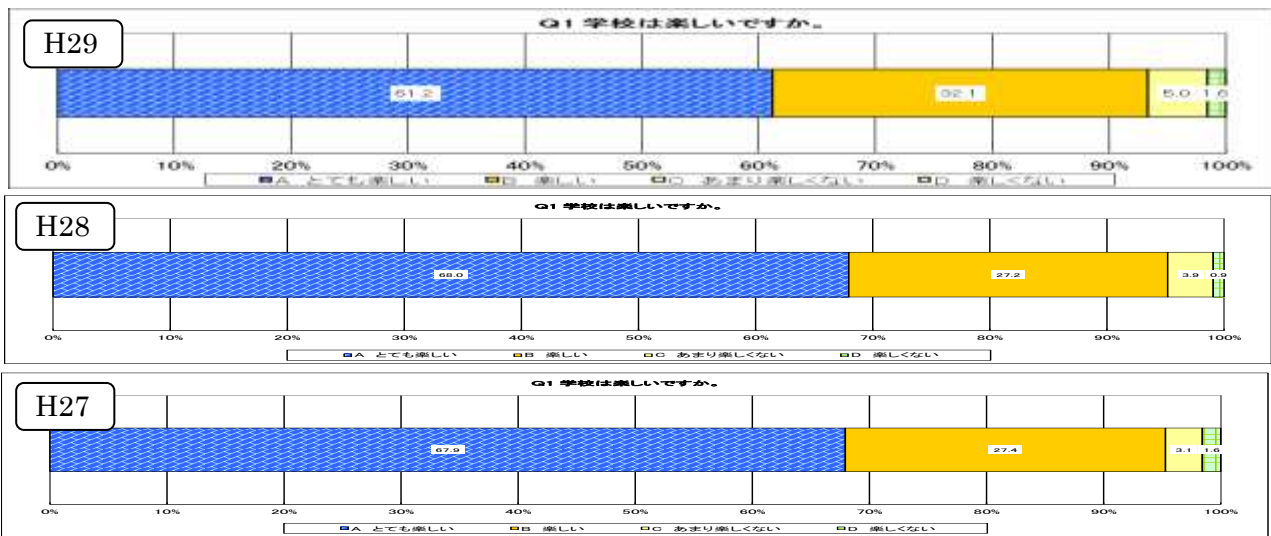
5段階評価 A：とてもそう思う B：そう思う C：ややそう思わない D：そう思わない (E：わからない)

基本的に「E：わからない」は、明らかに担当外でない限りはつけないようにした。年1回の実施のため、昨年、一昨年度の結果を踏まえながら検討している。

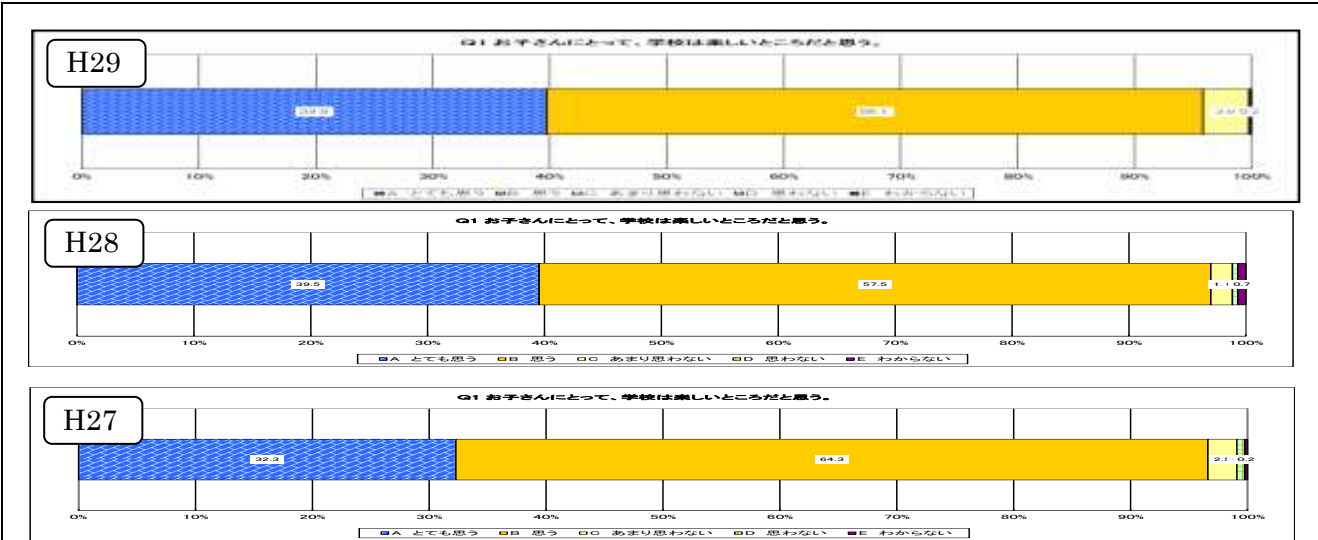
(1) 毎年教職員の自己評価は、項目全てで「A+Bの肯定的評価」が90%以上となる傾向にある。子どもたちのために、誠実に職務を果たそうとする姿勢が表れていると自負している。今年度からAは「そう思う」から「とてもそう思う」、Bは「ややそう思う」から「そう思う」へと意味合いを変えたため、数値で見ると昨年度より意識が低下したように見えるが、昨年度と同様の数値の場合は意識が向上していることになる。また、今年度は、より正確な結果からよりよい改善につなげるため、評価のための時間を設定し、必要に応じて全体で確認しながら行ったことで教職員の評価に対する意識がより高くなり、評価に対する自己基準が高くなったと捉えている。

本校では、学校長を中心に、学校教育目標具現化を目指し、チーム学校（チームドラゴン2017）としてすべての教職員が協働し、研鑽を積んでいる。中堅教職員はより充実した教育活動を目指し、若手教職員は先輩教職員に負けまいと日々遅くまで勤務し、教材研究等を行っている。その結果として多忙・多忙感に対する健康管理など改善すべき点も出てきている。しかし、本校の学習規律「明るく元気な竜の子15箇条」をもとにした授業改善、生活指導はより充実し、子どもたちは落ち着いた学校生活を送ることができている。教職員一人一人が高い課題意識を持ち、日々の活動に取り組む様子が今回の調査から確認できた。

(2) 児童アンケートでは、Q1「学校は楽しいですか。」に対して肯定意見（Aとても楽しい+B楽しい）が93%となり、多くの児童が学校生活に満足する状況であるが、否定意見（Cややそう思わない+D思わない）の児童が6%ほど（29人）いることを重く捉える必要がある。また、H27、H28のグラフと比べると、自信を持って楽しいと回答できる児童がやや減少していることがわかる。否定回答児童について細かな見取りを行うとともに、Q-U調査との相関を見ながら、きめ細かな指導を行っていくことが必要である。



(3) 保護者のアンケートでは、Q1「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」に対し、肯定意見は93.3%だった。否定意見は、一昨年、昨年同様の傾向にあることが以下のグラフからわかる。



2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

A回答が「とてもそう思う」に、B回答が昨年度までのA回答「そう思う」変更されたことから、今年度のA B回答が昨年度のA回答にあたるので、全体的に昨年度よりも肯定的数値が上がっているといえる。昨年度よりも取り組みへの意識がさらに高まった結果と考える。皆で一緒に評価する時間を確保して回答することで教職員の課題意識が高まり、厳しく評価していると考え、「あなたは」で始まる項目は、特に厳しく評価していると考えられる。一方、「あなたの学校は」で始まる項目について、A評価が低いものは改善の必要がある。

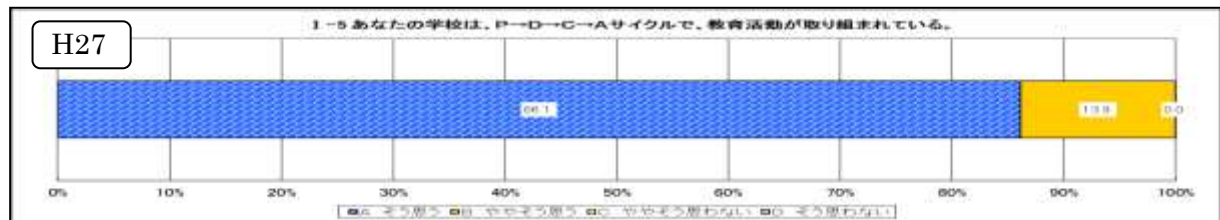
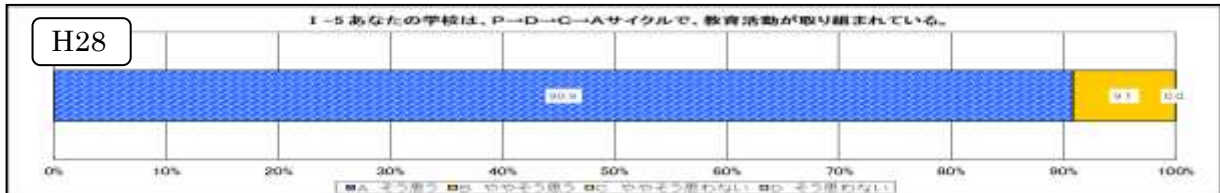
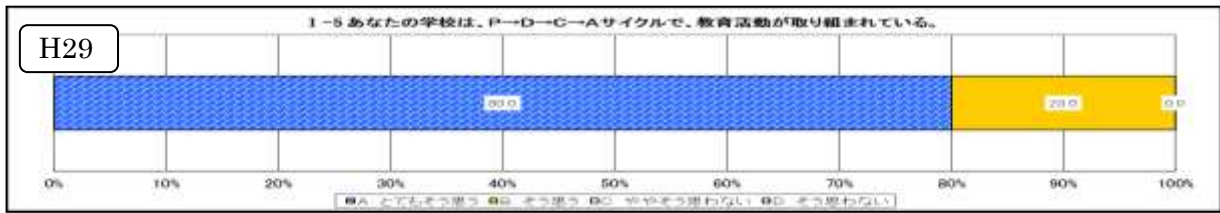
達成状況

番号	項目	H29評価				H28評価				H27後期評価			
		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
	I 学校教育目標に関して・学校経営について	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	思わない	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	思わない
1	あなたの学校は、学校教育目標が、学校経営方針を踏まえたものになっている。	97.1	2.9	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	97.2	2.8	0.0	0.0
2	あなたは、学校経営方針に基づき、教育活動を行っている。	68.6	31.4	0.0	0.0	93.9	6.1	0.0	0.0	86.1	13.9	0.0	0.0
3	あなたの学校は、学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。	94.3	5.7	0.0	0.0	97.0	3.0	0.0	0.0	94.4	5.6	0.0	0.0
4	あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている。	60.0	40.0	0.0	0.0	72.7	27.3	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0
5	あなたの学校は、P→D→C→Aサイクルで、教育活動が取り組まれている。	80.0	20.0	0.0	0.0	90.9	9.1	0.0	0.0	86.1	13.9	0.0	0.0
6	あなたは、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている。	57.1	40.0	2.9	0.0	78.8	21.2	0.0	0.0	63.9	33.3	2.8	0.0
7	あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。	44.1	50.0	5.9	0.0	57.6	33.3	9.1	0.0	41.7	58.3	0.0	0.0
8	あなたの学校は、特別支援教育の体制が整い、機能的に行われている。	79.4	20.6	0.0	0.0	78.8	21.2	0.0	0.0	82.4	17.6	0.0	0.0

(1) 1, 2, 3, 4項について

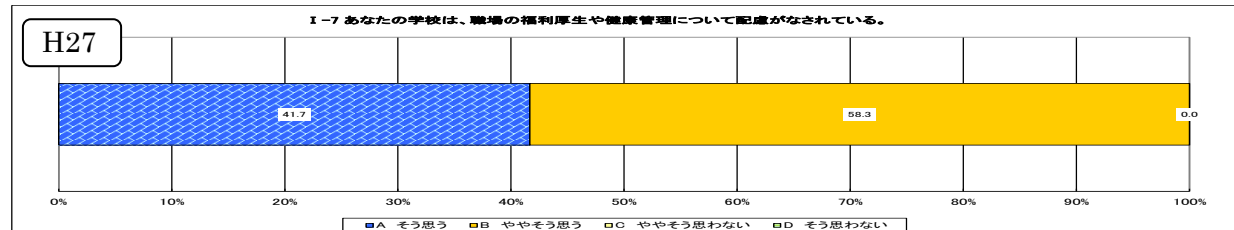
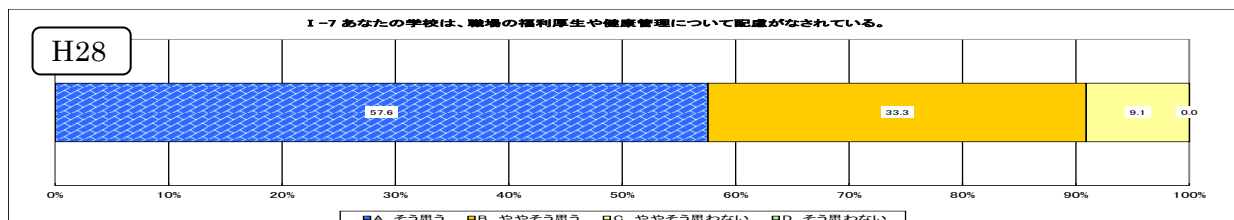
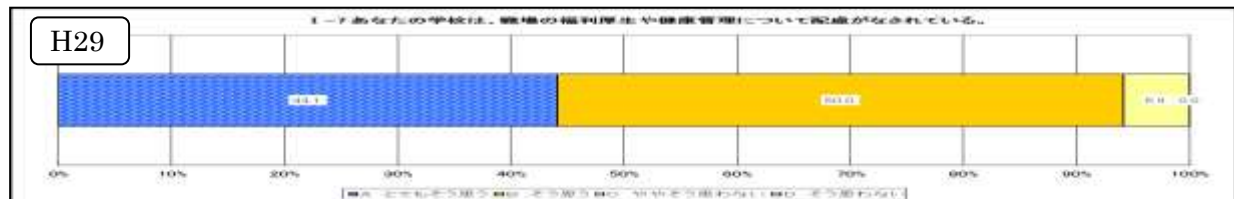
昨年、一昨年度に比べて肯定的評価はさらに高くなっている。学校経営方針、活動計画に沿った活動、実践は校長の方針の下に確実に行われているといえる。日々の忙しさの中で、教職員が目目の前の仕事（授業、校務分掌など）に追われる中でも常に意識して取り組み、学校教育目標、経営方針、活動計画に沿って、児童や地域の実態に合った指導が行われている。

(2) 教育活動のPDCAサイクル



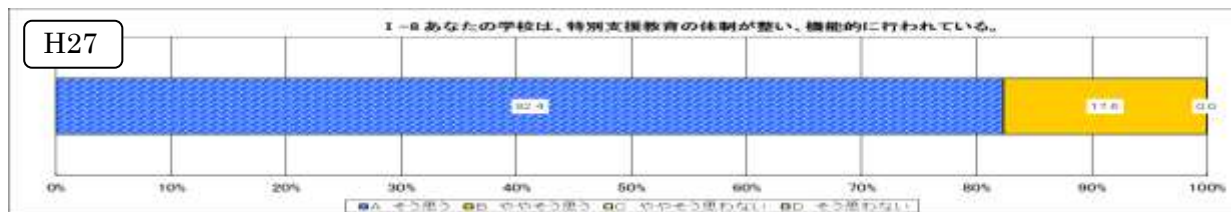
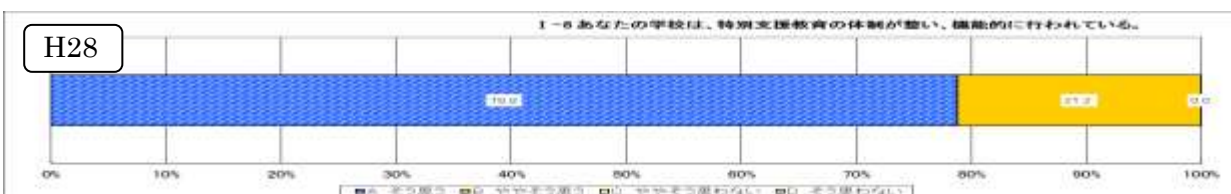
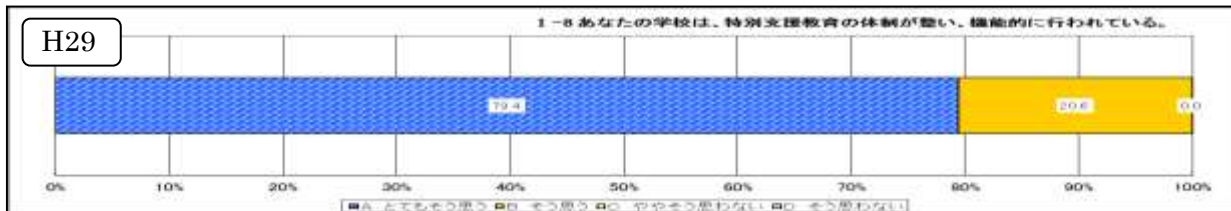
肯定的評価 100%になっていて、反省を踏まえ、改善した教育活動が行われているといえる。諸活動については、担当が前年度の反省を踏まえて職員会議で提案し、改善の必要があるものは行った上で実施し、実施後来年度へ向けて全体で反省を行っている。その中で、今年度は特に、**諸活動においてその活動を行うねらいをより明確にする**ように取り組んできた。子どもたちにどんな力を付けるためか、どんな姿を求めるのか、教職員全体で共通の認識で取り組めるようにするためである。また、**ねらいに沿った子どもの姿が見られたか、力が付いたかを反省の中心にすること**にも心がけた。今までの学校の反省内容は、活動の内容や方法に偏りがちであった。ねらいと反省において目指す子ども像と子どもの変容をより明確にすることで、効果的・効率的な活動ができる。今後も子どもの姿を明確にしたPDCAを意識して取り組んで行く。

(3) 職場の福利厚生・健康管理



子どもたちのために日々時間外まで一生懸命働くことへの負担感がここに表れている。管理職からは、多忙対策の取り組みが提案されて実施しており、実は多忙感の低下に効果が上がっているのだが、仕事量自体には変化なく、また、新学習指導要領ではますますやらなければならないことが増えるために多忙感は改善されても多忙は変わらない。教員の勤務実態を改善していく国の取り組みが、単に時間外勤務を制限するなど表面的なものだけでなく、時間外勤務をしないですむような実質的なものになってほしい。

(4) 特別支援教育



本校では、特別支援コーディネーターが中心となり、特別支援学級の経営だけでなく、定期的な「特別支援のための校内委員会」を実施して特別な支援を必要とする児童への支援を計画したり、実際に支援を行ったりしている。また、特別支援学級担任は、交流学級と連携を深めて、支援児童が負担感なく活動できるよう常に配慮を欠かさずに学級経営を行っている。昨年度まで以上に積極的に特別支援教育が行われていると感じている教職員が増えたと考えられ、自信を持ってA評価100%としたい。

改善策

- ・「職場の福利厚生や健康管理」については、社会情勢に合わせ、すでに管理職が中心となってさまざまな方策を実行している。仕事に熱心な職員が多く、帰りの時間が遅くなる傾向があるが、家族構成や諸事情から、早く帰らなければならない教職員もいることを配慮し合いながら、退勤時間以降は帰りやすい雰囲気をつくっていく。
- ・特別支援担当への負担（例えば関係機関との連携・連絡・調整や空き時間なしでの異年齢学級経営）がまだまだ大きい。特別支援担任への支援体制をさらに整えたい。

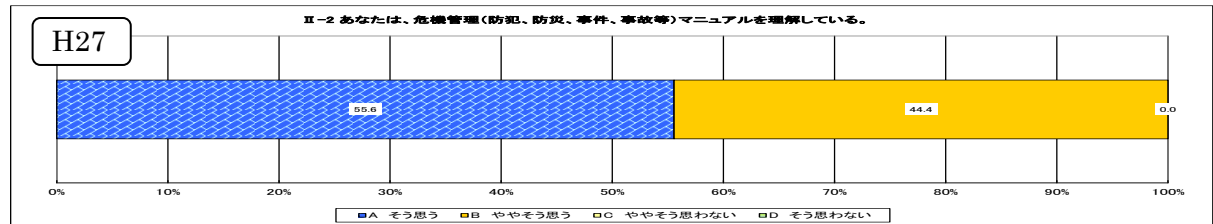
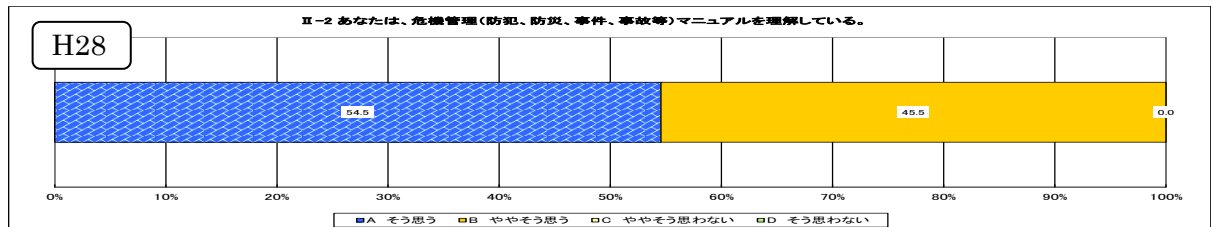
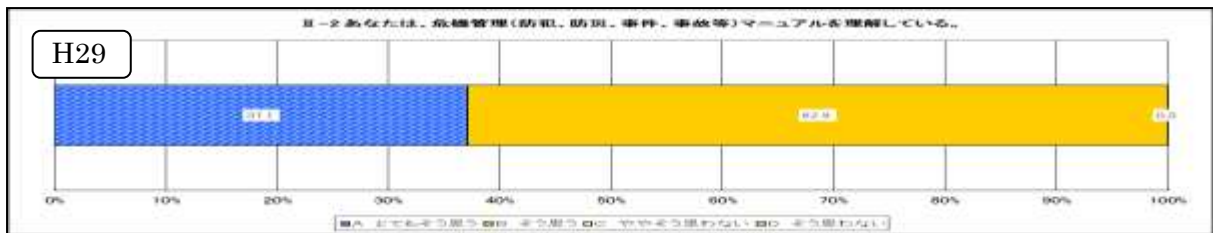
II 学校運営について

達成状況

「学校運営について」でも、肯定的評価は全体的に昨年度までと比べて上がっていることから概ね良好な学校運営がなされているといえる。一方でC評価も見られる。基本的に「わからない」回答をしないことから、微妙な立場（関わりがないわけではないがあまり関わりがない立場）の教職員も回答していることによると考えられる項目もあるが、改善を目指して取り組むことが必要である。

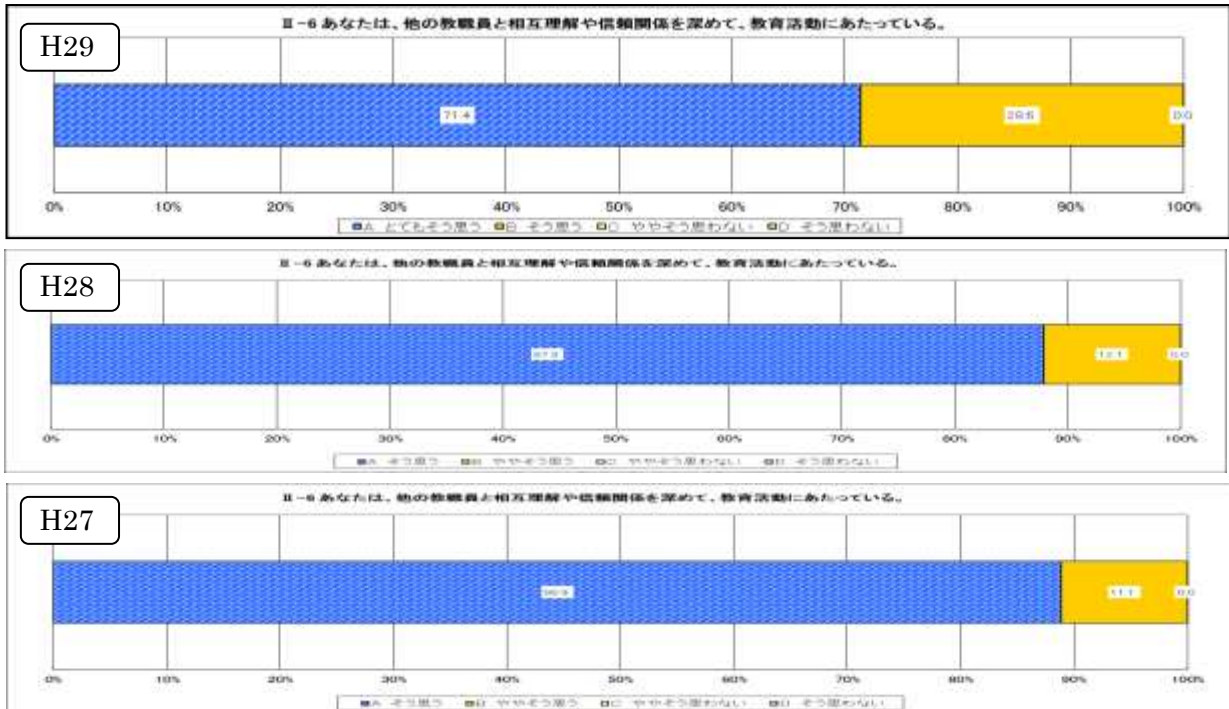
番号	項目	H29評価				H28評価				H27後期評価			
		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
		とても思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	思わない	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	思わない
1	あなたは、校舎内外の施設設備を定期的に点検し、結果を的確に処理・報告(整備・保全)している。	65.7	34.3	0.0	0.0	72.7	27.3	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0
2	あなたは、危機管理(防犯、防災、事件、事故等)マニュアルを理解している。	37.1	62.9	0.0	0.0	54.5	45.5	0.0	0.0	55.6	44.4	0.0	0.0
3	あなたは、個人情報保護・情報セキュリティの観点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している。	80.0	20.0	0.0	0.0	75.8	24.2	0.0	0.0	80.6	19.4	0.0	0.0
4	あなたの校務分掌は、学校運営上、機能している。	71.4	25.7	2.9	0.0	71.9	28.1	0.0	0.0	77.1	22.9	0.0	0.0
5	あなたは、職員会議に、積極的に関わっている。	67.6	29.4	2.9	0.0	76.7	23.3	0.0	0.0	77.8	22.2	0.0	0.0
6	あなたは、他の教職員と相互理解や信頼関係を深めて、教育活動にあたっている。	71.4	28.6	0.0	0.0	87.9	12.1	0.0	0.0	88.9	11.1	0.0	0.0
7	あなたは、職務上「報告、連絡、相談、確認」を行っている。	85.7	14.3	0.0	0.0	90.9	6.1	3.0	0.0	91.7	8.3	0.0	0.0
8	あなたは、校内研究(研修)に主体的に関わっている。	44.1	50.0	5.9	0.0	64.5	32.3	3.2	0.0	69.4	27.8	2.8	0.0
9	あなたは、教育活動の円滑な実施のために、児童や家庭に対して目標の徹底を図っている。	47.1	50.0	2.9	0.0	68.8	28.1	3.1	0.0	61.1	38.9	0.0	0.0

(1) 危機管理マニュアル



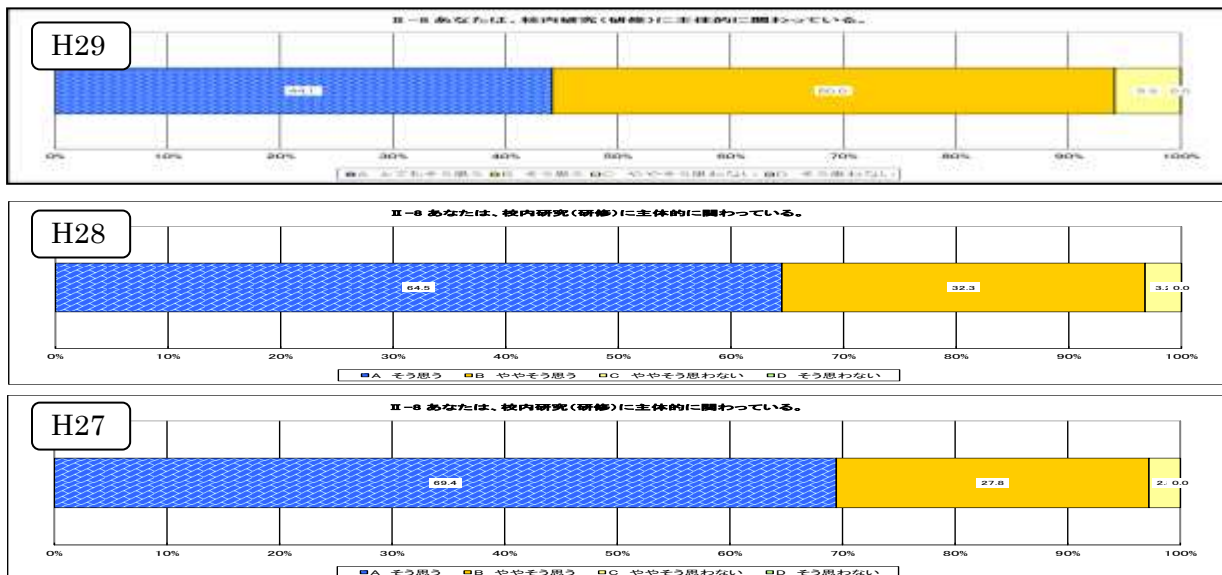
肯定的評価 100%となっているが、様々な危機を想定して児童の安全を最優先しなければならないことから危機管理マニュアルは定期的に再確認できるようにする。マニュアルは4月のはじめに配布しているので、訓練時にマニュアルを使って確認するなど、意識できる機会を増やす。本校では、予告なしの訓練や不審者侵入自動放送の確認を行う中で、子どもたちは訓練で培った動きを確実に行うことができていた。また、ケースに応じた訓練を行うなど、様々な事態に対応できるよう取り組んでいることからマニュアルの改善も行っていく。

(2) 職員間の相互理解と信頼関係構築



相互理解を深めるための時間的、心的ゆとりがない中でも、確認やコミュニケーションを大切に日々取り組んでいることがわかる。今後も忙しい中でも職員間のコミュニケーションが図れるよう、お互いに意識して声かけしたり、確認したりできるよう心がけたい。

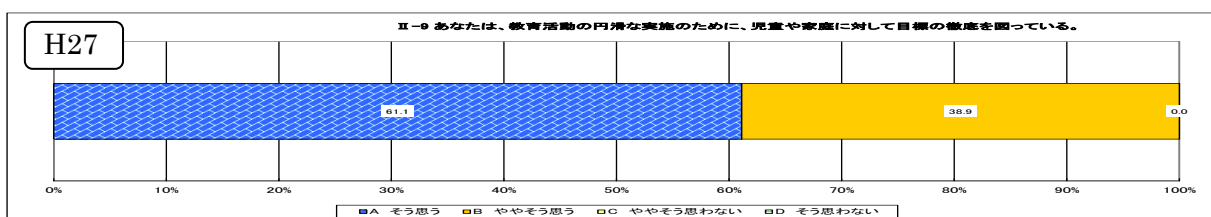
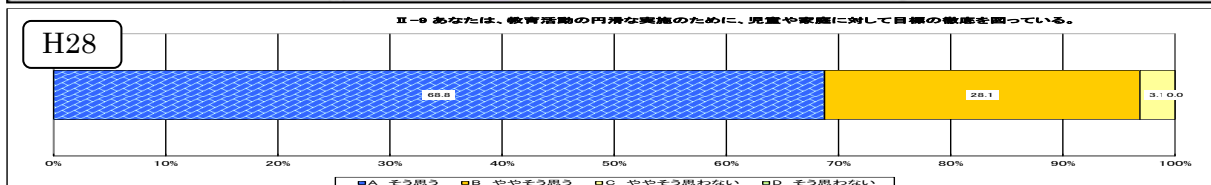
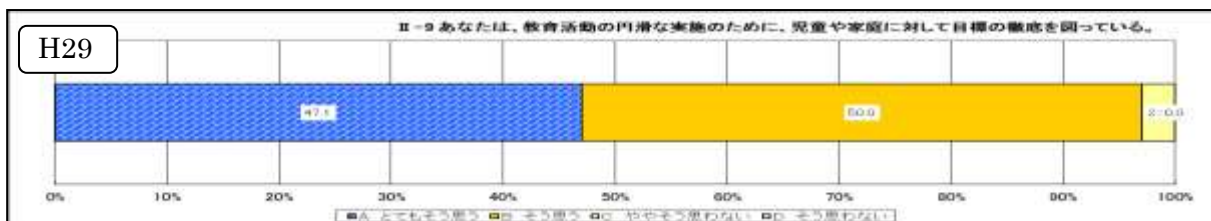
(3) 校内研究への主体的な関わり



「校内研究へ主体的に関わっている」では、肯定的評価が昨年度を大きく上回ったが、C評価も見られる。本校は、甲斐市教育委員会から「21世紀型学力を育成する教育課程に関する研究」の指定を受け、新学習指導要領における外国語やプログラミング教育のあり方について1月26日に公開研究会を行った。今年度は、主体的な研究活動を推進するために内容ごとにグループを作って取り組んできた。先進的内容であるため、まだ文部科学省から具体的内容が明示されず暗中模索であったために、「主体的」と回答できなかったかもしれない。しかし、本校で研

究し取り組んでいる教育活動に、たくさんの肯定的意見と共感をいただくことができた。

(3) 児童や家庭への目標の徹底



肯定的評価（A・B）の合計が97%以上の肯定率となった。本校では教育活動の基盤としての「学習規律」を日々意識した学習・生活を行うことで確実な成果を上げている。具体的には「竜の子15箇条」の取り組み、板書計画やノートの取り方、家庭学習の推進等日々指導してきている。しかし、自信を持ってAと答えられなかったことにも着目し、**教育活動の基盤が揺らぐことのないように、全教職員で「学習基盤」であることを改めて意識したい。**

改善策

- ・危機管理マニュアルを常に把握するために、避難訓練時など定期的にマニュアルを使用する機会をつくる。マニュアルで自分の分担や危機時の流れをチェックしたり、必要事項等を記入したりすることで理解度を高める。また、ケースを想定した本校訓練の成果をマニュアルに反映させていく。
- ・校内研究での成果を教育課程に反映し、来年度の教育活動につなげていくと同時に、実践の中で改善を行う。
- ・「目標の設定を行う」では、「学習規律」がなぜ必要なのか再度確認するとともに、目標が明確な授業や生活目標を常に心がけ、行動できるように職員全体で意識していく。

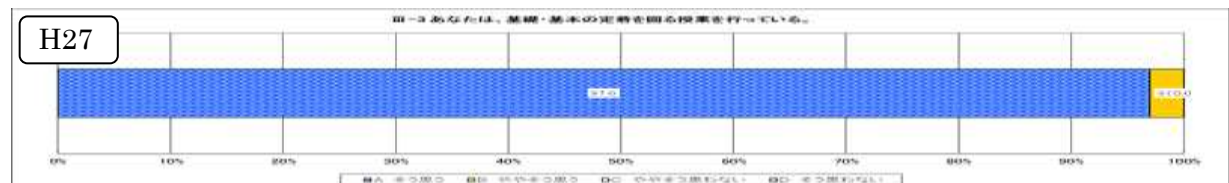
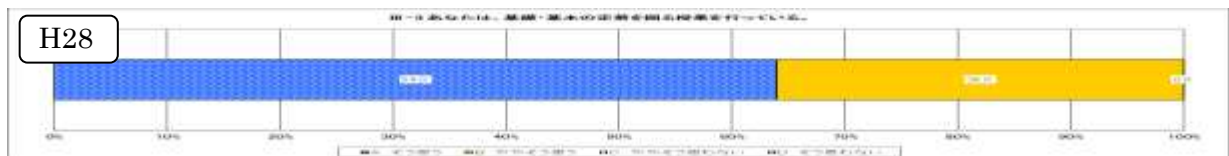
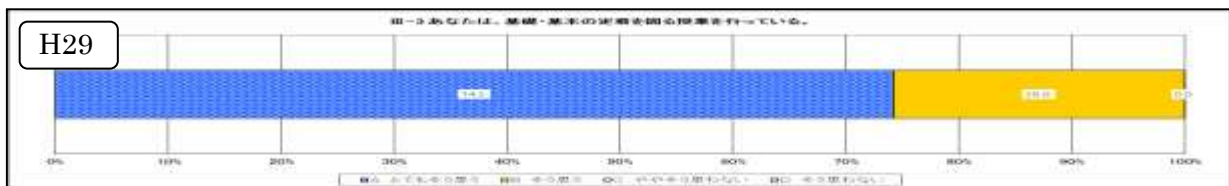
Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

設問 5, 6 を除き、肯定的評価となった。C評価が減少していることから、組織的に研究を進める本校の取り組みの成果が表れ、全般的に概ね満足できる学習指導への取り組みが行われてきているといえる。特に外国語学習では、校内研究での取り組みの成果を感じる。

番号	項目	H29評価				H28評価				H27後期評価			
		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
		とても思う	そう思う	やや思わない	そう思わない	そう思う	やや思う	やや思わない	思わない	そう思う	やや思う	やや思わない	思わない
1	あなたは、民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている。	71.0	29.0	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	75.8	24.2	0.0	0.0
2	あなたは、児童生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている。	61.3	38.7	0.0	0.0	52.0	48.0	0.0	0.0	75.8	24.2	0.0	0.0
3	あなたは、基礎・基本の定着を図る授業を行っている。	74.2	25.8	0.0	0.0	64.0	36.0	0.0	0.0	97.0	3.0	0.0	0.0
4	あなたは、個に配慮した授業を行っている。	58.1	41.9	0.0	0.0	56.0	40.0	4.0	0.0	63.6	36.4	0.0	0.0
5	あなたは、評価規準と評価方法を明確にした授業を行っている。	41.9	54.8	3.2	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	33.3	60.6	6.1	0.0
6	あなたは、教材教具や備品等を活用した授業を行っている。	77.4	19.4	3.2	0.0	80.8	15.4	3.8	0.0	72.7	27.3	0.0	0.0
7	あなたは、質問や発言が出てくる授業を行っている。	54.8	45.2	0.0	0.0	44.0	56.0	0.0	0.0	57.6	42.4	0.0	0.0
8	あなたは、宿題や家庭学習に対する指導を行っている。	74.2	25.8	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	72.7	27.3	0.0	0.0
9	あなたは、児童の思考力・判断力・表現力を伸ばすような活用型の学習活動を取り組んでいる。	61.3	38.7	0.0	0.0	54.2	37.5	8.3	0.0	59.4	37.5	3.1	0.0
10	あなたはALTとの外国語(英語)学習を実施する中で、国際理解を高める指導を行っている。	66.7	33.3	0.0	0.0	60.9	39.1	0.0	0.0	46.9	50.0	3.1	0.0

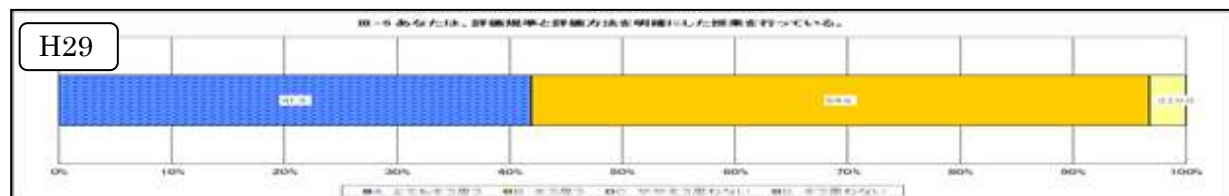
(1) 基礎・基本の定着を図る授業

達成状況

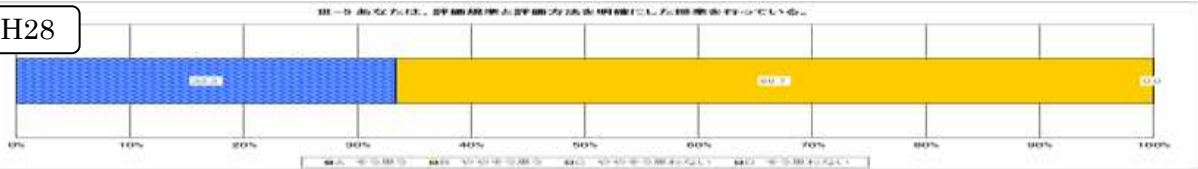


肯定的評価 100%であり、日頃、基礎・基本的な知識・技能の指導を重視して取り組んでいる様子がわかる。「とても思う」と「そう思う」で、さほど違いはないと思われるが、自信を持ってA回答しないのは、自らの指導に満足していないか、指導内容の多さから、子どもたちに十分時間をかけて指導してあげられないもどかしさではないかと思われる。何を重視して指導し、どこに時間をかけて教えるのか、今後も工夫していかなければならない。

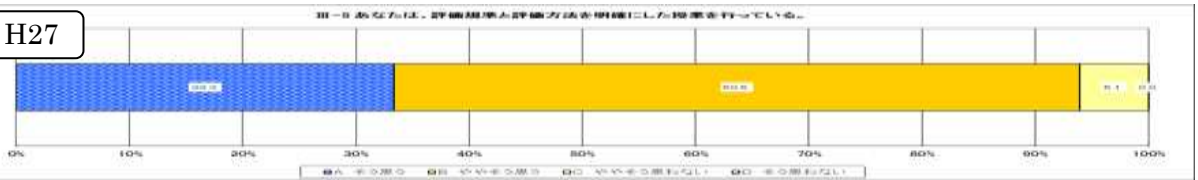
(2) 評価を明確にした授業



H28



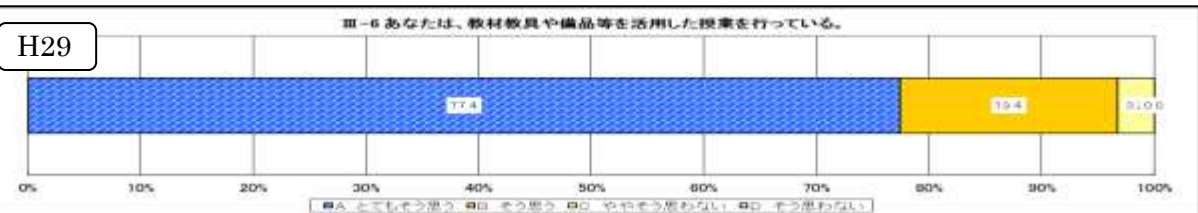
H27



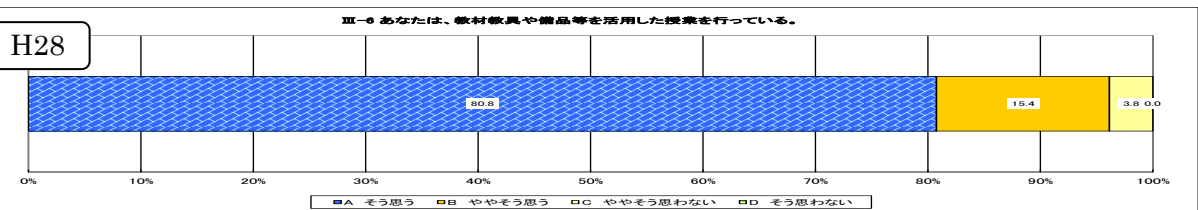
自信を持ってA回答とする評価が伸びているものの、C回答もあり差が出てきている。評価基準、評価方法は学年で話し合い、学年内で共通に行われなくてはならないので、**新しい学習に入る時、学年でどんな評価基準でどんな評価を行うのかを確認して明確にした授業を行えるよう、さらに組織的な意識を高めたい。**

(3) 教材教具・備品を活用した授業

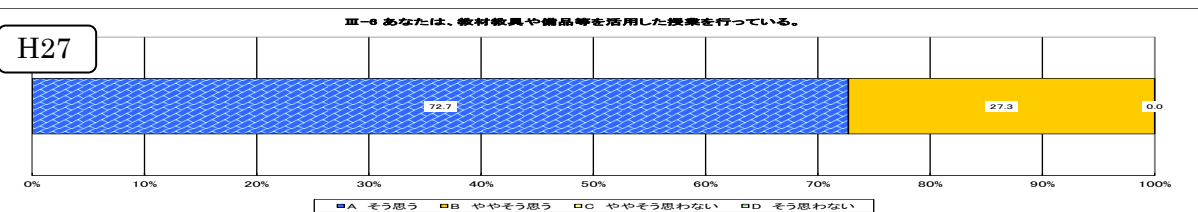
H29



H28

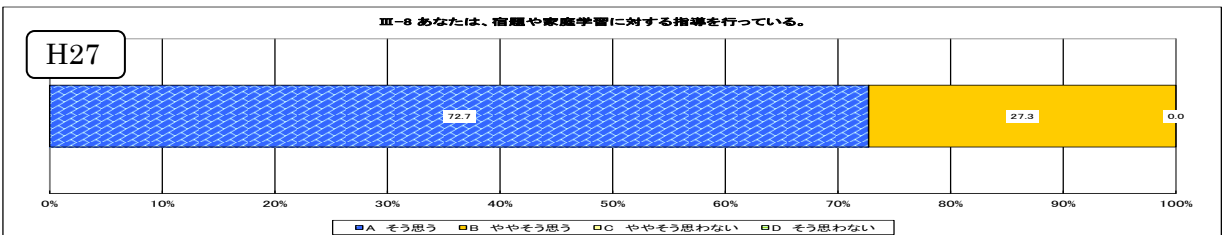
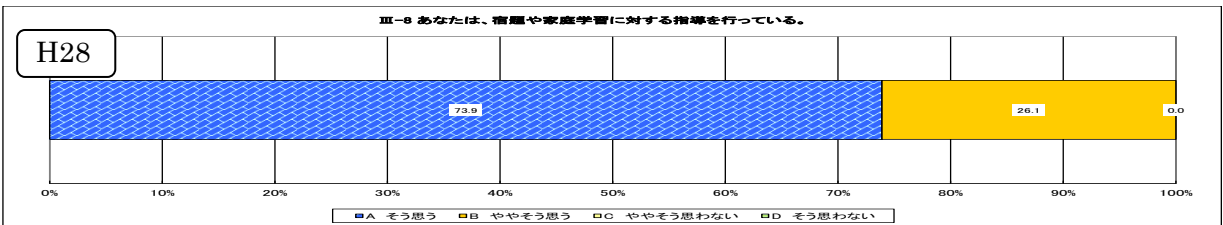
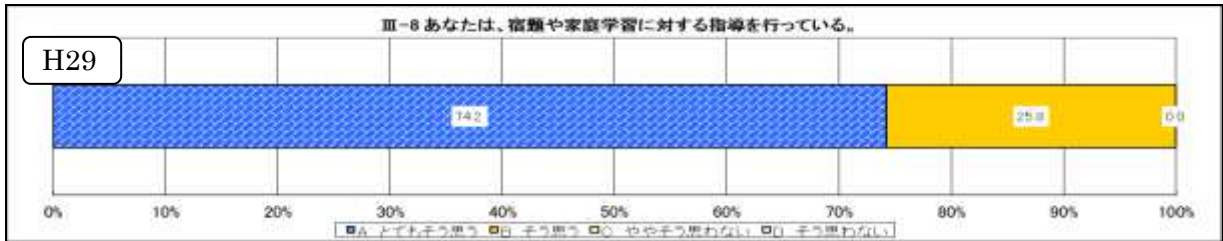


H27



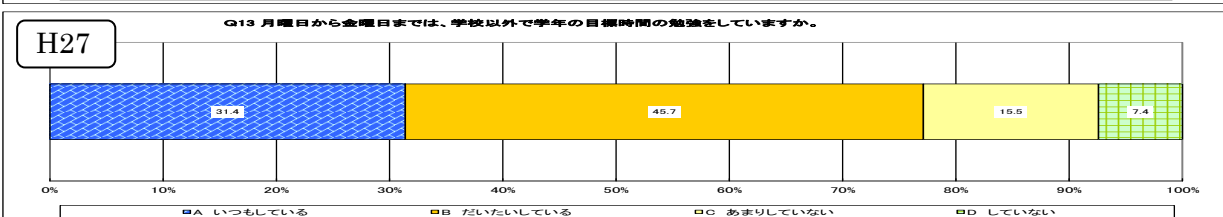
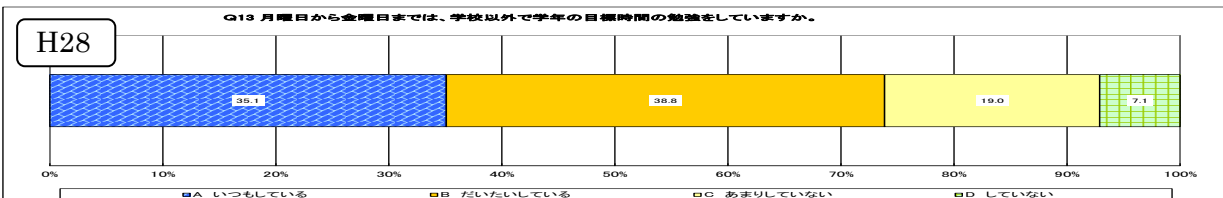
これも自信を持ってA回答とする評価が伸びているものの、C回答もあり差が見られる。ICT 機器活用、デジタル教科書使用や具体物を使用しての指導など工夫ある指導を行っているものの、1日6校時全てで教材教具を活用した授業を行うことは、準備の上でなかなか難しい。しかし、子どもたちの生き生きとした学習を保障するために、限られた時間の中で効果的で効率的な授業を行うためには、今後も教材教具の活用をできる限り行っていく。

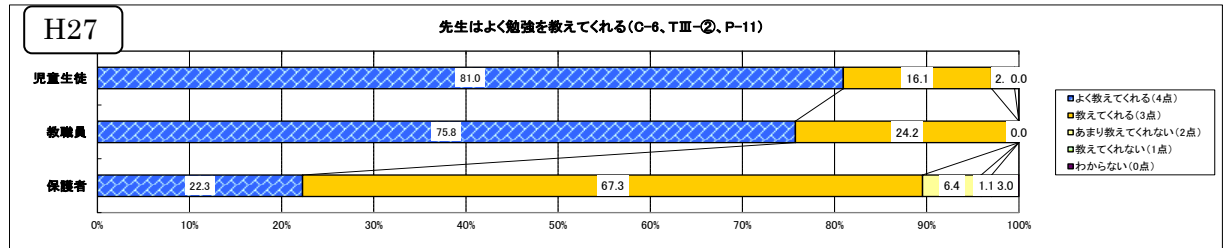
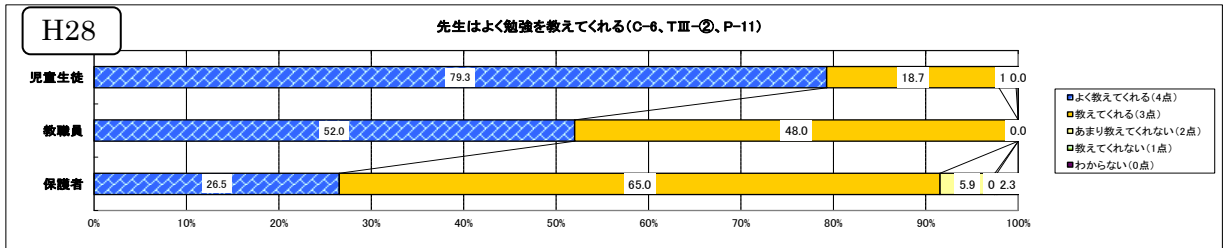
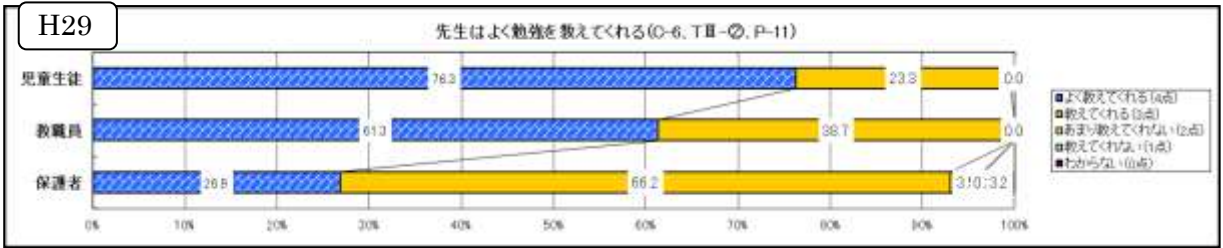
(4) 宿題や家庭学習への指導



教職員評価は肯定的評価 100%となり、教職員の家庭学習指導は年々向上しているといえる。本校では、宿題の他、自主学習を課題として出している。学年に応じた自主学習の取り組み方の冊子「家庭学習の手引き」も配布し、どのように家庭学習を進めたらよいか参考にしてもらっている。また、子どもたちが取り組んだ宿題や自主学習は、できるだけ早くチェックし、指導の参考にしている。

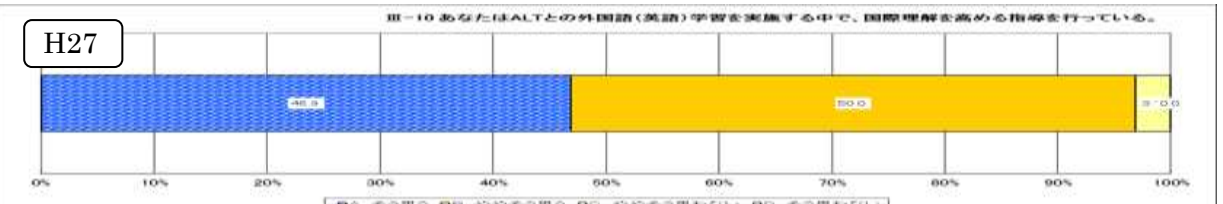
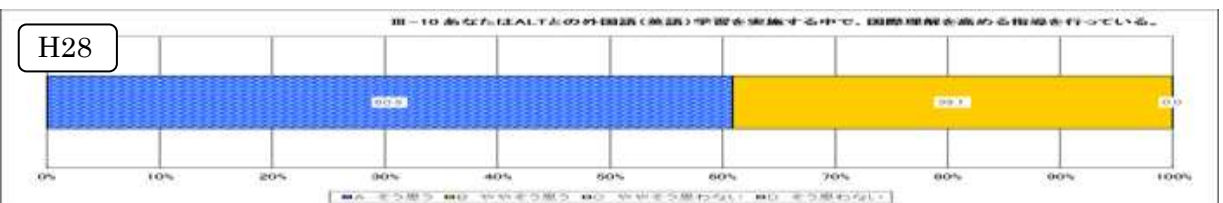
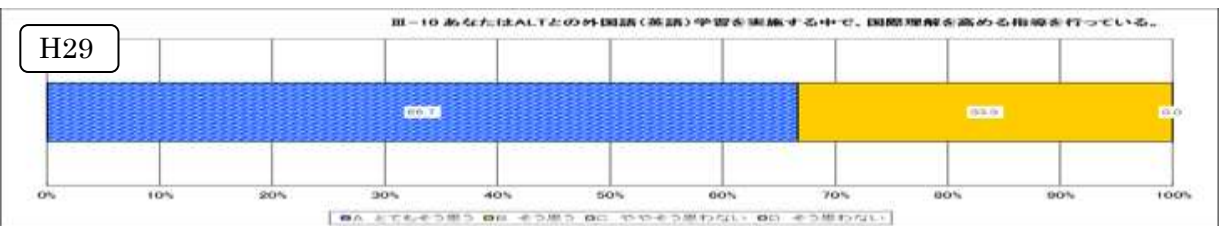
家庭学習については、甲斐市の創甲斐教育では「学年×10+10分」が目安となっている。児童のアンケートからは、次のグラフのように3年間で大きな変化はないが、A回答（いつもしている）が30%台と低く、また、CD評価が少しずつ増え、30%となっている。学力の二極化が心配される。学力の確実な定着を図るためには、学んだことを振り返ったり、学んだことを広げたりすることが大切である。そのためには、毎日の宿題はもちろん、決めた時間は学習する習慣を徹底したい。今後も本校の「家庭学習の手引き」を有効に使い、改善を図っていく。





学習指導に関して児童と保護者を含めた相関図を見ると、「先生はよく勉強を教えてくれる」の設問に対し、教職員・児童・保護者に開きが見られる。3年間のグラフから、児童はA回答が多く、教職員が丁寧に教えてくれていると感じている児童が多いことがわかる。教職員の「学びの意欲を喚起する授業を行う」という意識は向上しているが、保護者はA回答がわずかに上昇したものの変わらず20%台と低い傾向にある。保護者に授業の様子がより伝わるように、効果的な方法を考えていく必要がある。

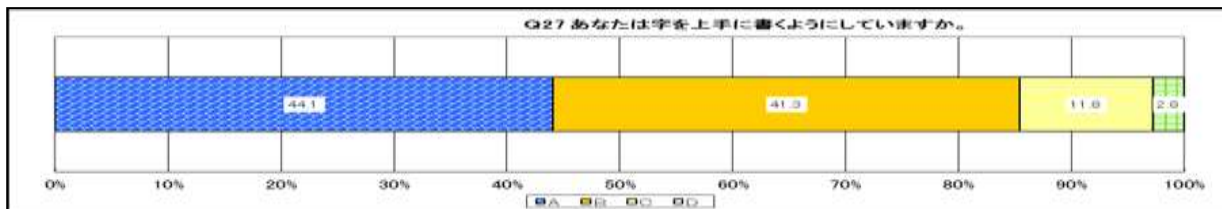
(5) 外国語学習・国際理解教育



A回答「とてもそう思う」が3分の2以上と高い数値を示した。今年度は校内研究で外国語に取り組んだこともあり、来年度からの外国語・外国語活動実施に向けて、教職員が特に意識して指導

した結果といえる。5, 6年生は、今年度、二学期から朝の時間（火・水・木の8時30分から8時45分まで）に短時間学習（モジュール）で外国語・外国語活動を始めた。来年度も年間15週のモジュールを行う。

(6) 児童アンケート 字を上手に書く意識



今年度より新たに加えた設問である。子どもたちが字を上手に書くようにしているか、意識をみる問いである。85%は上手に書くよう意識しているが、15%ほどは「していない」という結果になっている。子どもたちは、学校や家庭で日頃から字を丁寧に書くよう声かけされているが、学校では子どもたちの字を指導する機会が特にたくさんあるので、字を丁寧に、上手に書く意義を伝えながら今後も指導していきたい。また、家庭での取り組みも指導していきたい。

改善策

- ・評価基準・評価方法は、学年主任を中心に学年での各学習評価を再度確認し、明確にして授業を行う。授業導入時の「ねらい」が評価基準をも表すことから、「ねらい」を明確に板書すること、児童に「本時はこういう学習をする」といった説明を行う。
- ・来年度から新学習指導要領移行措置期間に入る。今までより指導内容が増えるので、教材、教具を活用して効率的・効果的な指導をしなければならない。教師間でも学び合い、教材教具・備品等を用いた効果的な指導がさらにできるようにする。

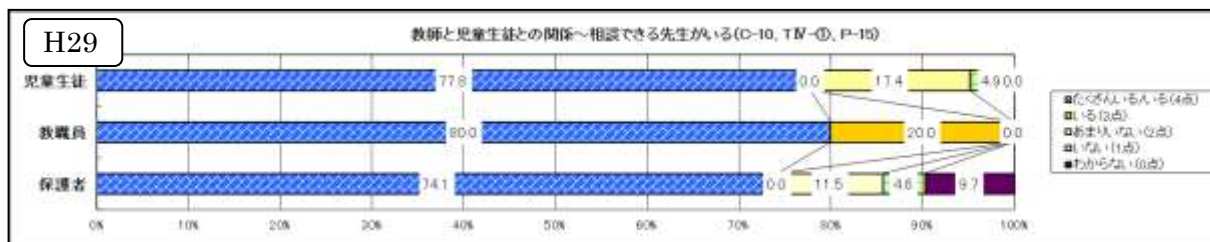
IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

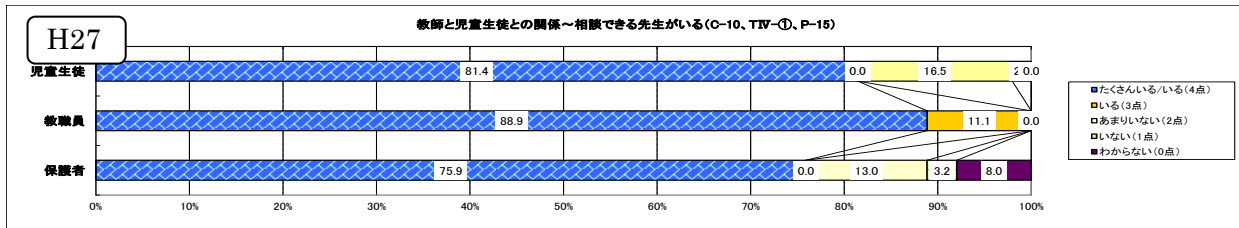
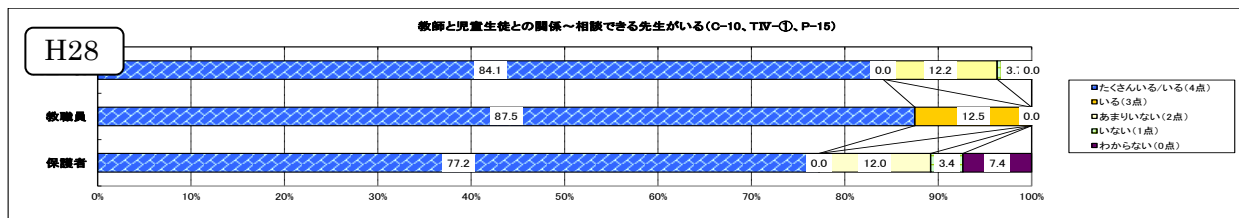
達成状況

AB回答率が高く、高い達成率を示しているといえる。特に、「竜の子15箇条」は学習規律であり、本校の学習活動全ての基盤であることから、今後も特に意識していきたい。一方、生き方教育、問題行動対応においてC回答がある。これからの時代は自らのキャリア発達を促す教育が必要であること、また児童が安心して学校生活を送れることは学校生活の基本であることを踏まえ、改善しなくてはならない。

番号	項目	H29評価				H28評価				H27後期評価			
		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	思わない	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	思わない
1	あなたは、児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている。(対:児童生徒)	80.0	20.0	0.0	0.0	87.5	12.5	0.0	0.0	88.9	11.1	0.0	0.0
2	あなたは、児童生徒の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる。	74.3	25.7	0.0	0.0	81.3	18.8	0.0	0.0	83.3	16.7	0.0	0.0
3	あなたは、生き方教育(キャリア教育・進路指導など)を児童生徒の実態に応じて行っている。	57.1	40.0	2.9	0.0	53.6	46.4	0.0	0.0	45.7	54.3	0.0	0.0
4	あなたは、問題行動(いじめ、不登校等)の早期発見・早期対応ができています。	62.9	34.3	2.9	0.0	79.3	20.7	0.0	0.0	77.1	22.9	0.0	0.0
5	あなたの学校は、職員間で生徒指導上の課題を共有した対応が行われている。	88.6	11.4	0.0	0.0	84.4	15.6	0.0	0.0	83.3	16.7	0.0	0.0
6	あなたの学校は、児童生徒の健全育成のために、学校・保護者・地域及び関係機関との連携が図られている。	80.0	20.0	0.0	0.0	87.1	12.9	0.0	0.0	77.8	19.4	2.8	0.0
7	あなたは、「明るく元気な竜の子15箇条」を意識して、生活指導に取り組んでいる。	73.5	26.5	0.0	0.0	90.6	9.4	0.0	0.0	80.6	19.4	0.0	0.0

(1) 児童とのコミュニケーション

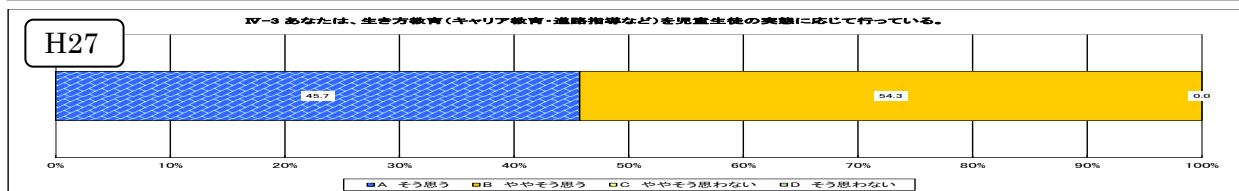
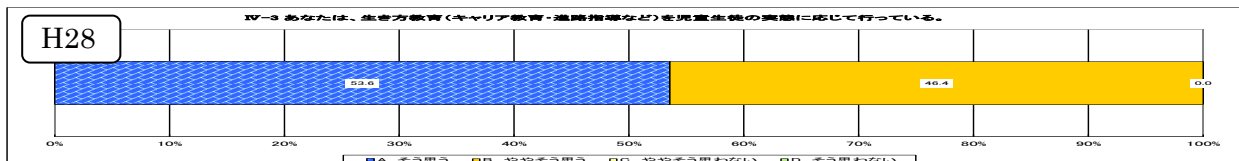
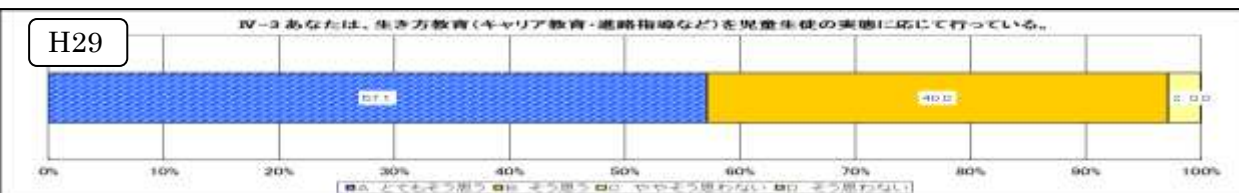




児童アンケートの結果から「こまった時に相談できる先生がいるか」の設問に対して、上記のグラフのように、肯定的評価（A 回答）で答えた児童は 77.8%となっていて市全体の平均値同様である。昨年度までも、否定的評価（CD回答）の児童がいることも踏まえ、今年度も児童に寄り添うきめ細かな指導やコミュニケーションを深める取り組みを継続して行っている。

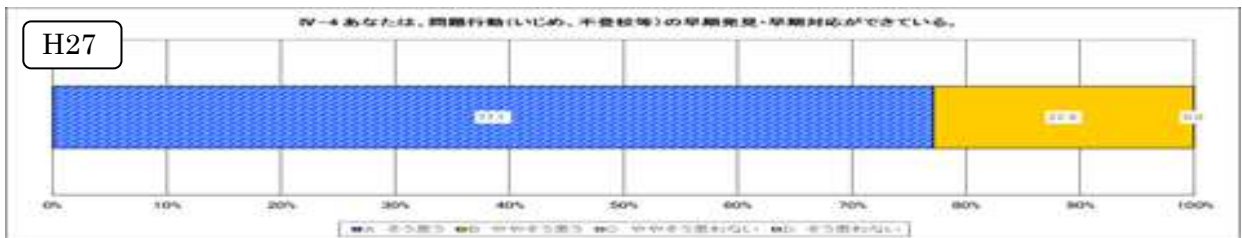
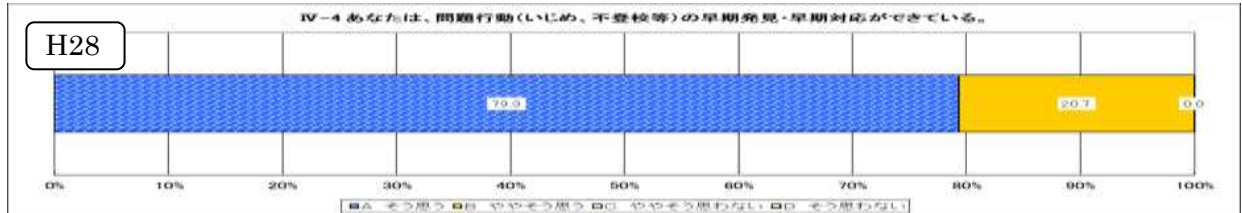
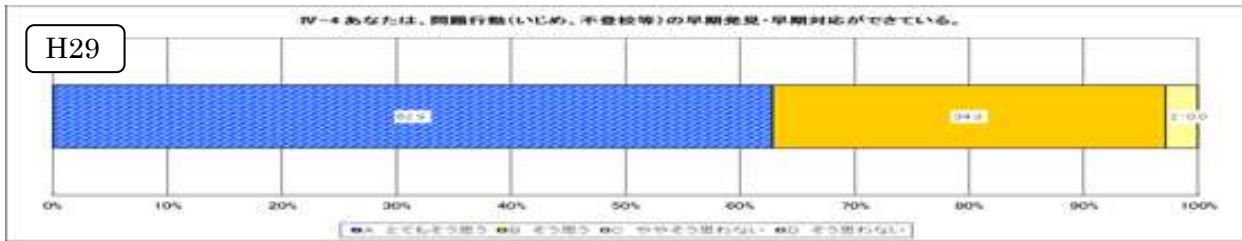
教職員と児童・保護者の相関関係は、昨年度まで同様に「教職員＞児童＞保護者」の傾向である。昨年度と同じ方針であるが、今後も誠意をもって児童と接し、児童や地域からも信頼される教職員をめざしていく。

(2) キャリア教育指導



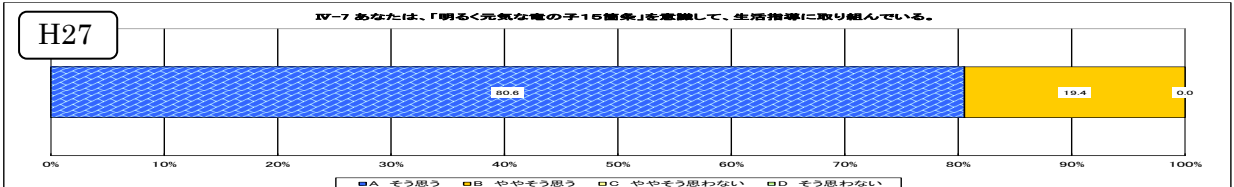
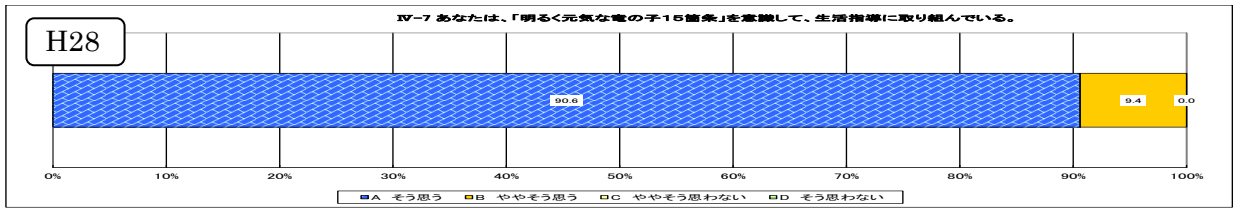
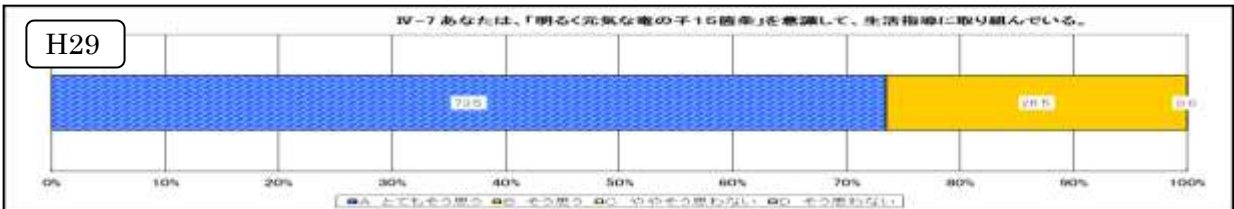
グラフに表れているように、キャリア教育への意識は年々高まっているといえる。しかし否定的評価（C回答）もみられるため、子どもたちのキャリア発達（自分が目指す将来に向けて必要な力を身に付けること）を促す教育が「キャリア教育」であり、各教科等の中にキャリア教育となる内容がたくさんあること、教科の目標とは別に「キャリア教育としてのねらい」を意識して指導するのだということを再確認し、学習活動で行えるようにする。

(3) 問題行動の早期発見・早期対応



本校では、通常の対応だけでなく、毎月生徒指導の話し合いの時間を確保して「気になる児童」の報告を行い、未然防止・早期対応のために必要に応じた対策をとっている。今年度のA回答は「とても」であるため、問題行動対応への意識がA B合計 97%の肯定的評価は非常に高いといえる。しかし、C回答にも注目し、今後も教職員全体で共通の認識を持ち、問題行動の未然防止・早期対応に一層努めていく。

(4) 竜の子15か条



「明るく元気な竜の子15箇条」は、本校の教育活動全ての基盤である。この基盤が確固として
 いることで豊かな教育活動の実施が可能となる。校長や生徒指導担当の指示・計画により、日々意
 識して指導を行っているところだが、これを維持することは**全教職員の強い意志と共通の対応**によ
 ってなされるものであり、**気を緩めるとあっという間に崩れてしまう**ものである。児童の意識を表
 すグラフを見ると、次第に意識が低下しているように見えることから、もう一度「竜の子15箇条」
 の意義を確認し、全教職員で取り組んでいく必要がある。



改善策

- ・教職員、児童共に「竜の子15箇条」の意識を高められるよう、管理職、生徒指導を中心に積極的な啓蒙、指導を行う。新しく来られる教職員にも「基盤としての15箇条の意義」を伝え、教職員が入れ替わっても基盤が揺るがないようにしていく。また学級担任は学年懇談会等で周知し、学校と家庭で連携した指導を行う。
- ・授業準備、宿題等の確認、連絡・調整、諸活動支援等で子どもたちとコミュニケーションをとれる時間が確保できない状況だが、「きずなの日」や、休み時間等を活用して少しでも子どもたちとふれあう時間、心の交流ができる時間をつくる。

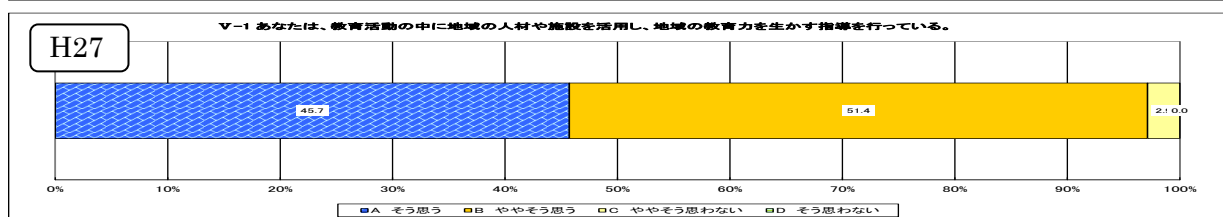
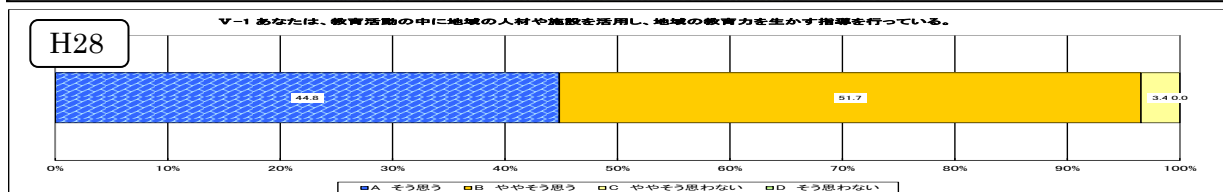
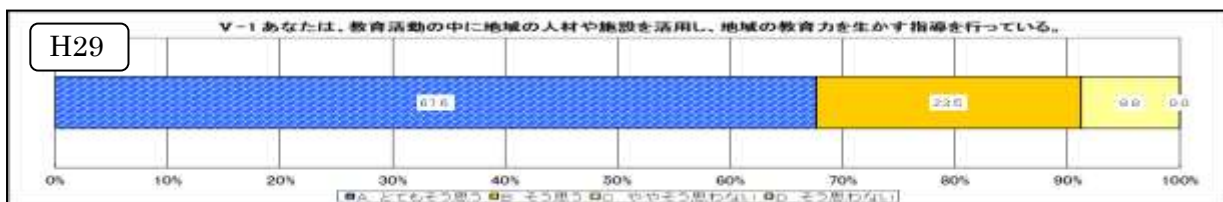
V 地域との連携について

達成状況

ほぼ肯定的評価（A B回答）となり概ね良好であるが、地域、保護者の連携について教職員の立場によっては直接見えない部分があり、他領域よりA回答が低くなる傾向にある。新学習指導要領では、地域との連携・協働が今後ますます重要になってくることから、学校と地域との協働を意識して教育活動をつくっていく必要がある。

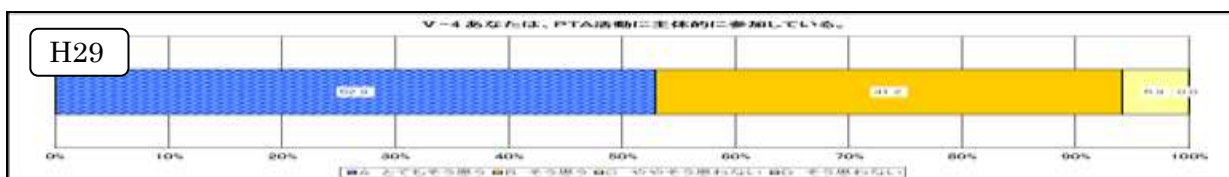
番号	項目	H29評価				H28評価				H27後期評価			
		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
		とても思う	そう思う	やや思わない	そう思わない	そう思う	ややそう思う	やや思わない	思わない	そう思う	ややそう思う	やや思わない	思わない
1	あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。	67.6	23.5	8.8	0.0	44.8	51.7	3.4	0.0	45.7	51.4	2.9	0.0
2	あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。	61.8	38.2	0.0	0.0	48.3	48.3	3.4	0.0	38.9	61.1	0.0	0.0
3	あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。	80.0	20.0	0.0	0.0	78.8	21.2	0.0	0.0	94.3	5.7	0.0	0.0
4	あなたは、PTA活動に主体的に参加している。	52.9	41.2	5.9	0.0	72.4	24.1	3.4	0.0	58.3	38.9	2.8	0.0
5	保護者は、PTA活動に協力的である。	44.1	55.9	0.0	0.0	61.3	38.7	0.0	0.0	61.1	38.9	0.0	0.0
6	地域・保護者は、児童生徒の安全確保に努めている。	64.7	35.3	0.0	0.0	78.1	21.9	0.0	0.0	83.3	16.7	0.0	0.0
7	保護者は、学習指導や生活指導に協力的である。	32.4	67.6	0.0	0.0	54.8	45.2	0.0	0.0	58.3	41.7	0.0	0.0
8	あなたの学校では、学校評議員制度や学校関係者評価委員会の話し合いの結果が学校教育に生かされている。	73.5	23.5	2.9	0.0	87.5	12.5	0.0	0.0	80.6	19.4	0.0	0.0
9	あなたの学校では、協力者会議を定期的に開催し、学校教育への理解と地域教育の向上に努めている。	82.4	14.7	2.9	0.0	87.5	12.5	0.0	0.0	88.6	11.4	0.0	0.0

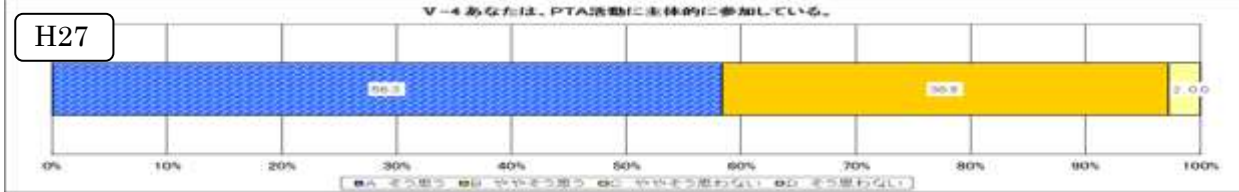
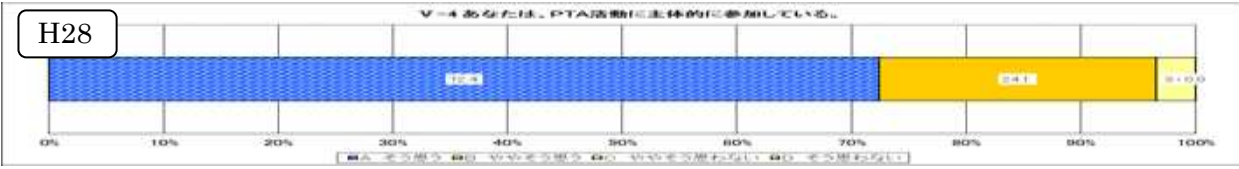
(1) 地域の教育力活用



A回答がとても高い数値になっている。各学年で地域の人材や施設を計画的に活用し、効果をあげていることからこのような結果となっていると思われるが、C回答もあるため、まだまだ活用したい学習場面があると思われる。新学習指導要領を見据え、学校と地域両方にとって有益な活動を考えていくことも求められる。

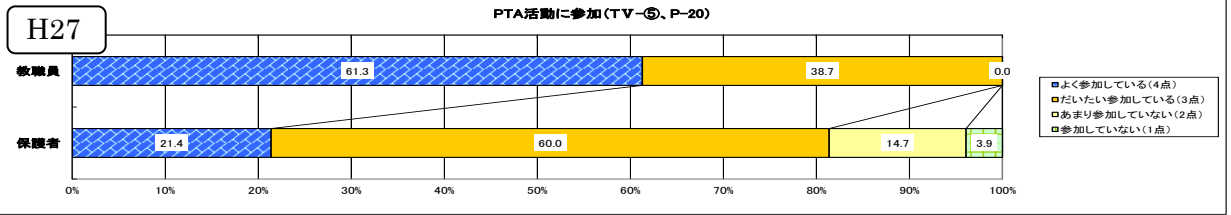
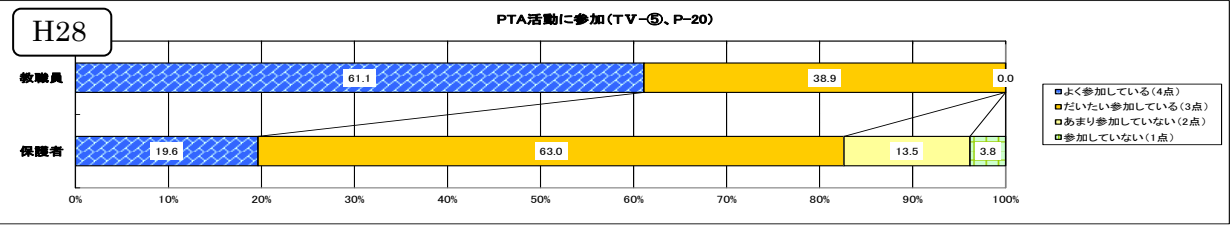
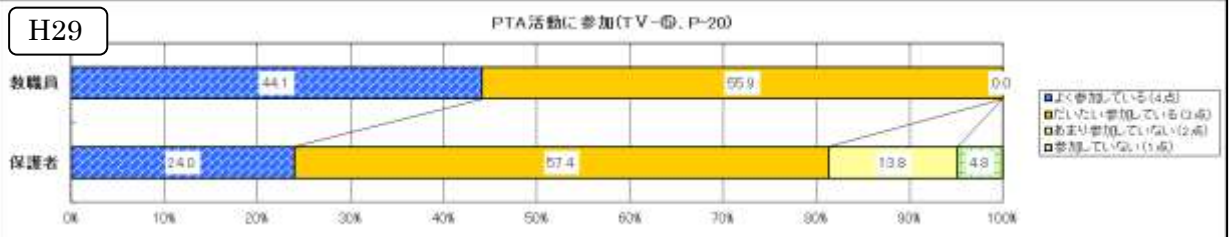
(2) 教職員のPTA活動 主体的参加





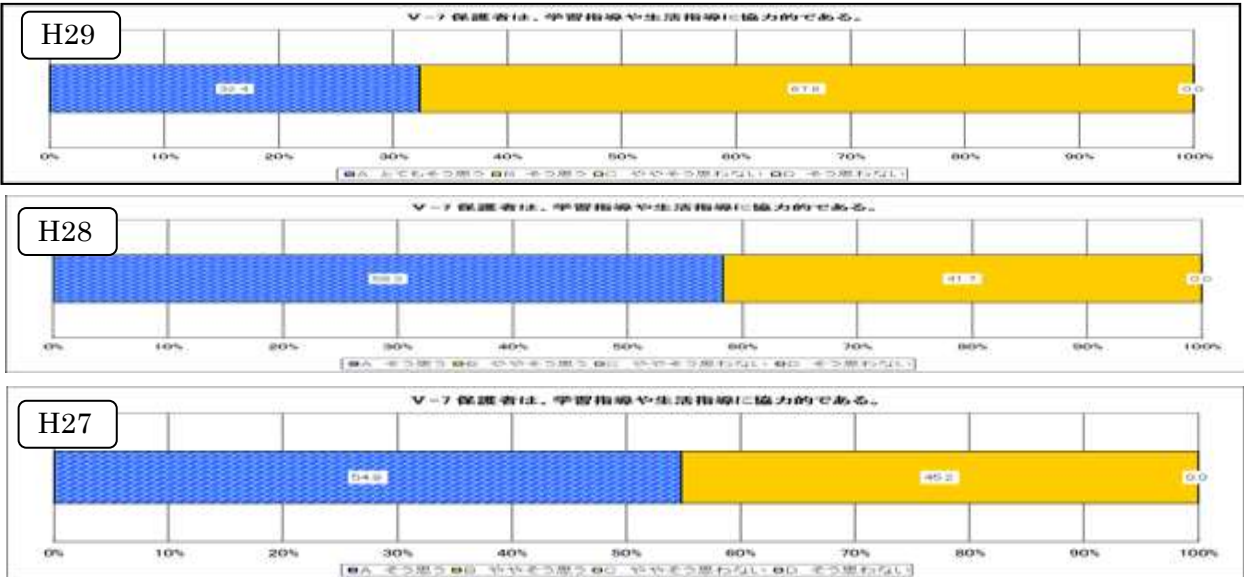
PTA活動に直接参加することがない教職員もいるため、A回答「とても」で答えられない場合もあるが、概ね主体的な参加はできている。各専門部の運営をはじめ、学年行事、竜小祭りや教育講演会、早朝作業や運動会の準備作業等、主体的に参加して取り組んでいることから、達成できているといえる。

(3) 保護者のPTA活動への協力



グラフの上段は、教職員が、保護者はPTA活動に協力的であるかを評価し、下段は、保護者が、PTA活動に協力できているか自己評価したものである。この相関図では項目が昨年度から同じであるが、もとになっている教職員自己評価では、A回答は「とてもそう思う」、B評価は「そう思う」であるため、昨年度までと表す内容が変わっている。保護者アンケートでは、今年度A評価が5%上昇しており、本会役員、専門部を中心にした活動への協力意識は高まってきているといえるものの、否定的評価が毎年一定の割合であることが課題である。

(3) 保護者の学習・生活指導への協力



肯定的評価（A B回答）で100%であり、良好といえる。多様な考え方、様々な事情に対して、学校は柔軟に対応する中で、子どもたちの学びや安心・安全な生活を保障するため、今後もコミュニケーションを深めながら対応していく。

改善策

連携は進んでいるものの、例えば「先生はよく勉強を教えてくれる」の保護者 A 評価率が児童・教職員に比べて低かったり、「保護者の学習生活指導協力」について教職員 A 評価率が低かったりするなど、教職員と保護者・地域が互いにわからない部分があると課題がある。協働し、互いにwin-winの関係を強化するために、今後も家庭や地域に開かれ信頼される学校づくりを推進し、地域との協働を意識して、地域の教育力を生かした教育活動に取り組むとともに地域に貢献できる学校教育をつくっていく。

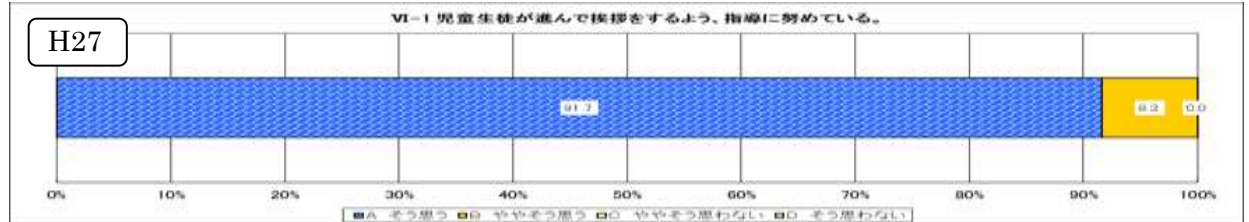
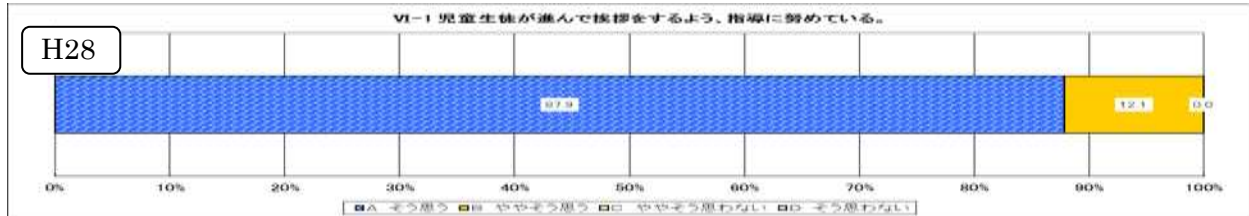
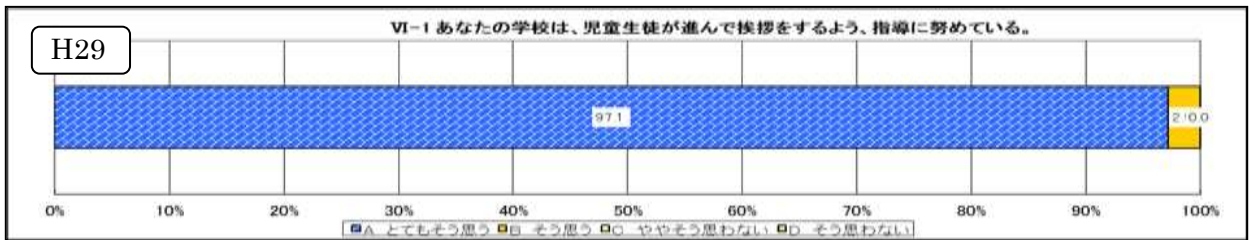
VI 学校の特徴に関して

達成状況

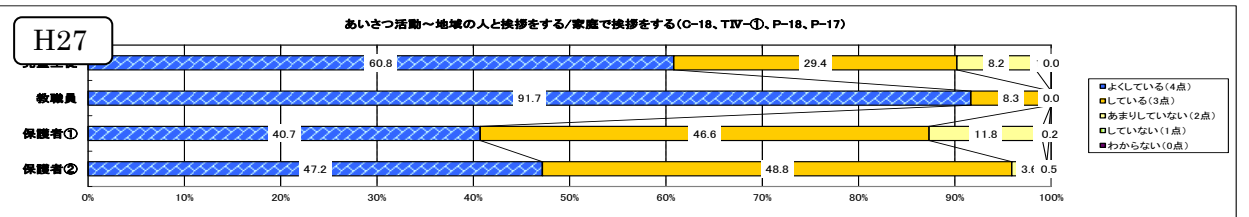
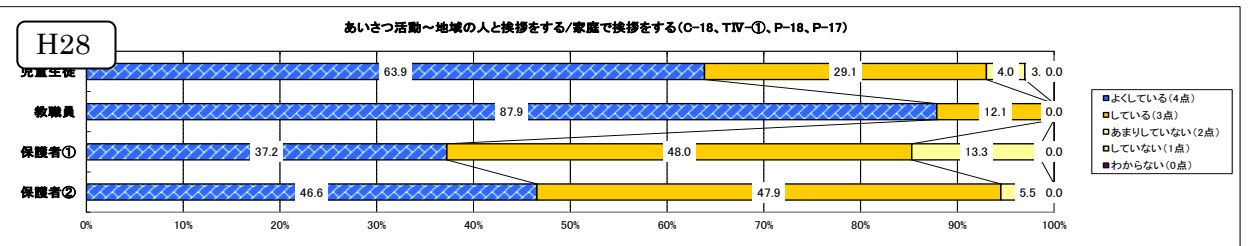
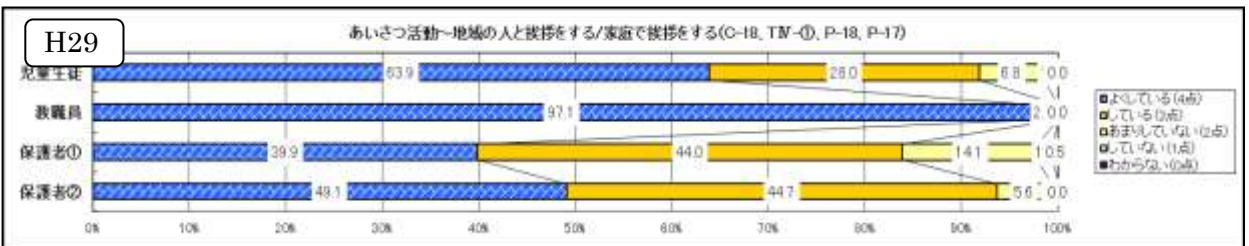
どの項目でもA回答が高い数値となり、特色を生かした活動ができていることがわかる。特に「挨拶活動」への指導は徹底されていることが伝わってくる。月・木曜日の朝学習で行う「読書活動」、伝統的な行事を大切に「児童会活動」については、竜王小学校の大きな特徴として今後とも活動を深めていきたい。

番号	項目	H29評価				H28評価				H27後期評価			
		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
		とても思う	そう思う	やや思わない	そう思わない	そう思う	やや思う	やや思わない	思わない	そう思う	やや思う	やや思わない	思わない
1	児童生徒が進んで挨拶をするよう、指導に努めている。	97.1	2.9	0.0	0.0	87.9	12.1	0.0	0.0	91.7	8.3	0.0	0.0
2	授業参観日や学校開放日を保護者や地域に伝え、定期的実施している。	97.1	2.9	0.0	0.0	90.9	9.1	0.0	0.0	97.2	2.8	0.0	0.0
3	児童が積極的に「読書活動」に取り組むよう、指導に努めている。	85.7	11.4	2.9	0.0	84.4	15.6	0.0	0.0	80.6	19.4	0.0	0.0
4	「児童会行事」に、児童が進んで取り組むよう、指導に努めている。	91.4	8.6	0.0	0.0	81.8	18.2	0.0	0.0	83.3	16.7	0.0	0.0
5	短縮日課など、時間割を工夫する中で、授業時数の確保に努めている。	91.4	8.6	0.0	0.0	93.8	6.3	0.0	0.0	83.3	16.7	0.0	0.0
6	教育機器(ICT等を含む)を、積極的に取り入れた活動を行っている。	88.6	11.4	0.0	0.0	81.3	15.6	3.1	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0

(1) 挨拶指導

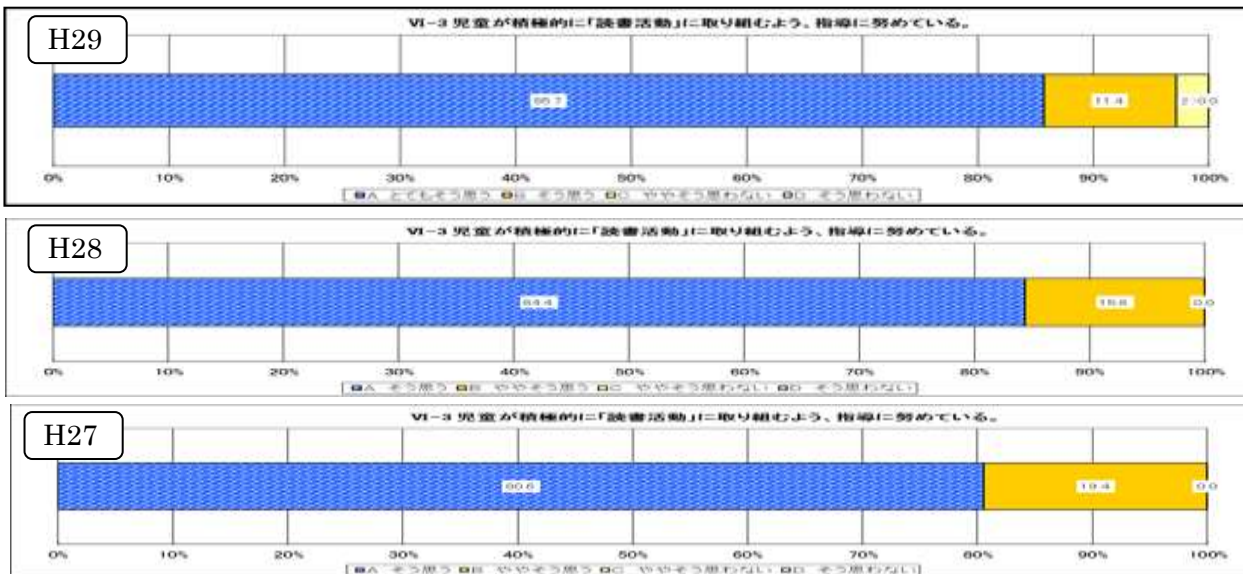


ほとんどがA回答であることから、指導が徹底されているといえる。例えば、教頭が欠かずに毎朝児童玄関に立ち元気に挨拶したり、小中連携により小中学生が互いの学校を訪問して挨拶運動を行ったりもしている。一斉下校時には、校長も外に出てハイタッチ挨拶を行うなど、礼儀としての挨拶指導だけでなく、コミュニケーションを深めるための挨拶も充実している。今後も本校のよさとして継続したい。



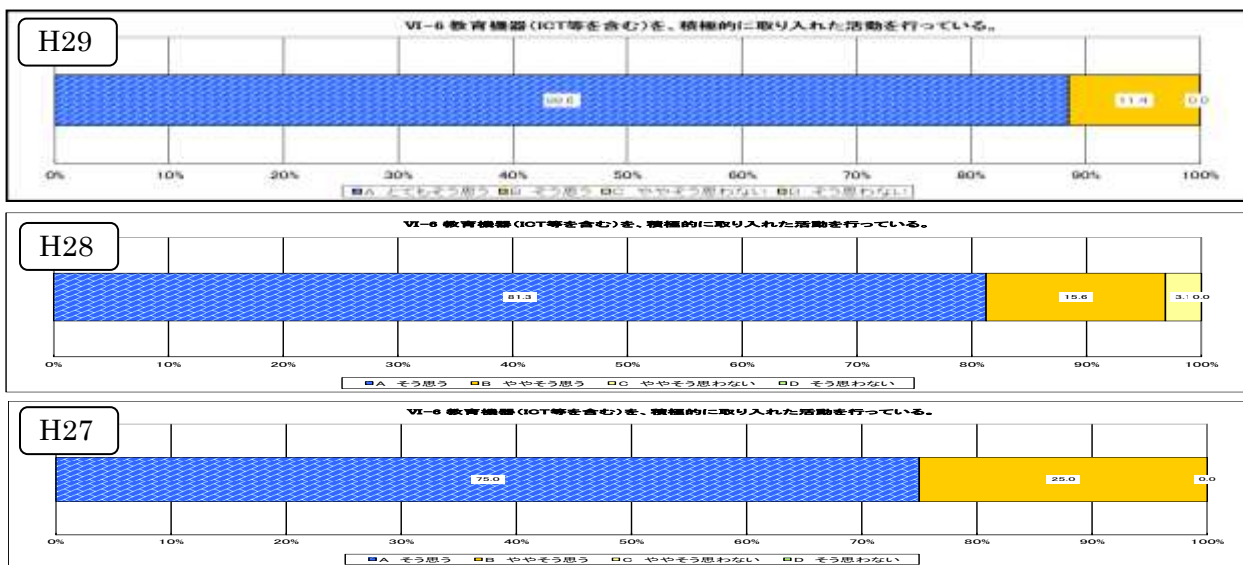
さらに、相関図をみると、保護者の挨拶指導が上昇してきていることが分かる。保護者①は「地域の人との挨拶」、保護者②は「家庭での挨拶」についての指導である。今後も家庭、地域と学校が一体となって挨拶を大切にしていきたい。

(2) 読書指導



読書指導が年々充実していることがグラフから分かる。学校司書や図書館主任を中心とした興味関心を高める読書活動の運営や図書委員会による朝の読書活動などで、子どもたちは日々読書に親しんでいる。図書バッグにはいつも本が入っていていつでも読めるようになっている。子どもたちの読書好きを育むよう、今後も指導に努める。

(3) ICT機器等活用



効果的、効率的な授業づくりのために、ICTを活用した活動が重視されている様子が見える。デジタル教科書の使用やiPad等タブレットを使用している問題解決学習、また、今年度はプログラミング教育の指導について校内研究で取り組み、プログラミング体験によるプログラミング的思考育成など、本校では先進的な取り組みも行われている。今後学習内容がますます増える中で、教職員皆が扱えるよう、今後も学び合っていく。

3 まとめ

〈成 果〉

- ・学校経営や学校運営等，教育活動全般について肯定的評価が多く見られたこと。
 - ・基礎・基本的の定着を図る授業づくりのために，教職員が現状に満足せずに取り組んでいること
 - ・新学習指導要領移行期に向けて，外国語教育の研究を深め，実践を積んで充実した授業をつくっていること。
 - ・生徒指導担当を中心に，全教職員で一丸となって問題行動の未然防止・早期対応に取り組んでいること。（H28 課題改善）
 - ・各学年の教育内容に合わせて地域の教育力を効果的に活用できていること。
 - ・学校の特色を生かした指導では，教職員の意識が非常に高く，質の高い教育が行われていること。（H28 課題改善）
- その中で，挨拶については保護者の意識も高くなっていること。
- ・本会役員，専門部を中心とした PTA 活動の充実により，保護者の PTA 活動参加意識が少しずつ高まってきていること。

〈課 題〉

- ・教職員が担う仕事量が多く，「多忙感」解消の取り組みを行っても，「多忙」に対して職員の福利厚生，健康管理に対して満足できる状況でないこと。（継続課題）
- ・充実した特別支援教育を行えているが，特別支援教育担任への負担が大きいこと。
- ・「地域との協働」のために，保護者・地域が理解できる P D C A を構築していくこと。
- ・子どもたちの安心・安全のために，危機管理マニュアルの理解をさらに深めること。
- ・学力の確実な定着のため，家庭学習の習慣化をさらに進めて二極化傾向をなくすこと。（H28 継続）
- ・時間がない中でも，子どもたちとのコミュニケーションを深める時間を確保して教職員との信頼関係を深めていくこと。
- ・「明るく元気な竜の子 15 箇条」の意義を再確認し，全職員で学習基盤を揺るぎないものにする事。
- ・保護者・地域と教職員が互いに見えない部分があることから，開かれた学校づくりのさらなる充実と協働を図ること。（継続課題）

